

平成30年8月9日（木）参加者27名。直前に台風13号「サンサン」が発生して実施が危ぶまれたが直前に進路が逸れて無事に実施できた。富士吉田市は、富士山の北麓・海拔750mの高原に開かれ、富士山の恵水に溢れ富士山信仰の町としての文化が今も残っている。

今回のウォーキングでは、「恵としての豊かな自然環境を大切に守り保全している方々の活動実態を知る」「富士山の豊富な地下水を資源とした天然水事業を知る」の2点を掲げて巡った。

見学ではそれぞれ丁寧に説明して頂き、流域の現状の一端を見聞することができた。

1. 富士八湖のひとつ明見湖

甲斐国志には富士八海（富士五海・明見海・志比礼（四尾連）海・須戸海）のひとつとして「小明見村ノ南ニアル小池ナリ」と記載されており、葛飾北斎の富嶽百景にも「阿須見村の不二」という風景画がある、古くは富士山信仰の垢離場（こりば・みそぎの場所）として富士山を目指す人々が周辺の山裾から湧き出す湧水で身を清めて向かった場所であった。近年でも富士山信仰の道者が山裾に作られた水場で身を清めて富士山に向かう姿がみられるという。

現在は「明見湖公園」として整備され“はす池”の愛称で親しまれ、明見湖（あすみこ）にメダカが生息できる環境を”コンセプトに「明見湖環境フェスティバル」が開催される。蓮池ガイドの皆さんの説明により満開に咲き誇る蓮の花を愛でながら、多様な生き物が生息する池の周りを歩いた。途中でバス釣りをしている若者の姿が気になったが、明見湖体験工房の皆さんのお茶とケーキのおもてなしを受けて笑顔が溢れる見学となった。



*富士八湖（富士五湖・四尾連湖・明見湖・駿河の浮島沼、後に泉端に変わる）

2. めだかの学校

校長の勝俣源一さんが平成3年山梨日々新聞に掲載された「県からめだかが消える」最後の生息地の明見湖のめだかが危ないという記事を読んで、明見湖のめだかを保護している方から譲り受けて所有している休耕田の溜池に放流。「このめだかをいつか明見湖に戻そう」と平成4年に「めだかの学校」を設立した。成果が認められて平成29年の「明見湖公園」の整備につながったといいます。見学した「めだかの学校の池」では、多くの稚魚が群れて珍しい白い

蓮の下を泳ぎ回るのを参加者が童心に戻って見入り歓声を上げていた。

勝俣さんの説明では、以前はホトケドジョウも生息していたが今では見ることができなくなり、明見湖はブラックバスやアメリカザリガニなどの外来種が侵入して、在来の生態系が崩れているのでめだかを明見湖に戻すにはまだまだ時間がかかるとのことであった。「めだか復活」の願いが早く叶うように清掃活動などに参加してみようと思った。



3. 秘境の湯治場 不動湯

信号「明見第一駐在所前」から川沿いに杓子山に向かって約3km登った山腹に周りを山林

に囲まれた「硯水不動尊」の霊水として有名な秘湯不動湯がある。昭和 48 年、当時の財産区、連合自治会の皆さんの努力により、公営施設不動湯として改築整備されて現在も自治会の皆さんが守り続けています。見学の対応された吉本さんが「水源としての周辺の森林整備や川のゴミ拾いなどを地域で実施、地元にある貴重な自然遺産・不動尊の霊水を守り不動湯として多くの方に利用して喜んでもらいたい」と熱く語られたのが印象に残った。富士北麓のパワースポット・不動湯に宿泊、休憩で訪れることをお勧めします。



4. 富士山の銘水工場見学

2010 年に創業した工場は、開発限界区域である標高 1000m 地点にあり地下 273m で採水した水を近代的で自動化された清潔な環境のなかで生産されていた。市域には地下天然水を利用した飲料水や食品加工の工場が多数みられる。同業他社と連絡協議会を開催して、地域と社会への貢献・共存共栄、知行合一の理念と行動指針のもとに企業運営しているとのことである。



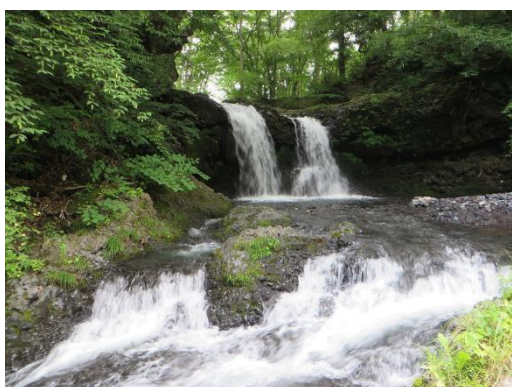
市の 1 年間の水収支は地下水貯水量・38 億トン、事業・利水利用は 0.1 億トン未満と紹介された。近年は気象変動が激しく同社系列の財団が行っている「森林整備活動をはじめとする環境保全事業」の取り組みが期待される。プラントでパック詰めされた水が宅配され、空になったパックは家庭のゴミとして処分されるとのことだが、課題となっている「マイクロプラスチックごみ」とならないよう 100% 資源としての再利用が徹底されることを願う。

5. 富士山レーダードーム館

1964 年 9 月に完成して 35 年の役割を終えた富士山レーダー展示や山頂マイナス 20℃ 体験は、日本の気象観測の歴史を知る上で貴重な内容である。参加した小学生の子供は寒さ体験や台風観測の疑似体験などに興味を持って何度も繰返していた。

5. 鐘山の滝

山中湖で湧いた水が忍野の湧水・新名庄川の水を集めて、美しい二条の滝となって溶岩の上を万緑の富士見公園内に流れ落ちる。次は紅葉に染まった滝を見たいと感じる一時だった。



【参加者の感想】 市民会員／平塚市 河野公三

台風 13 号の進路が変更になり無事実施されました。明見湖はハスの花が湖面を覆い見事でしたが、メダカやホトケドジョウを湖に放流しても外来種に食べられ元に戻せないと言われたのが印象的でした。天然水の工場見学では、地下 270m 付近からくみ出す製造工程の説明を聞きながらも PET 容器の使い捨てが気になりました。ウォーキングを支援された山梨県担当者、現地ボランティアの皆様にご挨拶申し上げます。